

天文台があって泊まれる児童館 姫路市宿泊型児童館「星の子館」^{やかた}

小 関 高 明

〈姫路市宿泊型児童館「星の子館」 〒671-2222 兵庫県姫路市青山 1470-24〉

e-mail: takaozeki@nifty.com

姫路市宿泊型児童館（愛称：星の子館）は宿泊機能のある大型児童館の第1号として1992（平成4）年5月1日に兵庫県姫路市青山にオープンしました。姫路市の直営施設で、健康福祉局に属しています。建物は安藤忠雄氏の設計で、主望遠鏡の口径90cm反射望遠鏡はアサヒビール株式会社から寄贈されたものです。休館日を除く毎日、無料で天体観望会を実施しています。

1. 立 地

姫路市は人口54万人弱の中核市で、世界文化遺産の姫路城が有名です。2001年には姫路城近くのイーグレ姫路で日本天文学会秋季年会が開催されましたので、この時に姫路を訪れた会員の皆さんも多いのではないかと思います。

星の子館は市の中心部にあたるJR姫路駅や姫路城から直線距離で約6km西の桜山公園内にあります。市街地に近い割には空が暗く、よく晴れた晩にはかすかながら天の川も見ることができま

す。道を隔てた向かい側には姫路市直営の姫路科学館があり、ドーム径27mの大型プラネタリウムが設置されています。このほか、桜山公園内には兵庫県立こどもの館（大型児童館）や姫路市自然観察の森などの公共施設が点在しています。

また、兵庫県内には県立西はりま天文台や明石市立天文科学館、加古川市立少年自然の家など多くの公開天文台やプラネタリウム館があり、これらと連携して天体観望会の開催や、星空案内人養成講座（はりま宇宙講座）なども開催しています。



図1 星の子館全景。

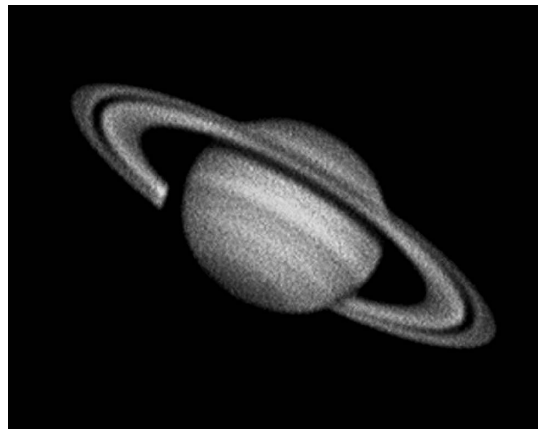


図2 星の子館で撮影した土星。



図3 星の子館 90 cm 反射望遠鏡.

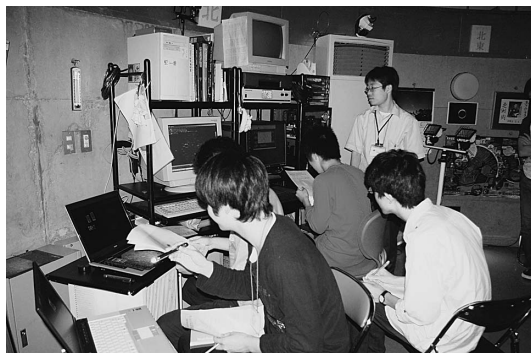


図4 ドーム内で観測中の「君が天文学者になる4日間 at 姫路」の参加者たち.

2. 望遠鏡と観測装置

主望遠鏡は口径 90 cm のニュートン・カセグレン式反射望遠鏡で、兵庫県にあったミカゲ光器製で、開館当時は国内の公開用望遠鏡としては最大口径のものでした。このクラスの望遠鏡の多くはフォーク式赤道儀や経緯台式ですが、ドイツ式赤道儀に搭載された珍しい存在です。

ミラーはイギリス・ジンデンの製品で、素材はショットのゼロデュア、ニュートン焦点 F5.4、カセグレン焦点 F15.9 です。光学性能は良好でシーイングの良い夜には月や惑星の表面など非常によく見えます (図2)。

観測撮像装置は、開館当初に購入した冷却 CCD カメラを 2006 年に更新し、また 2007 年には念願の低分散分光器を購入することができました。これにより、高校生向けのイベントなどに幅をもたすことができるようになりました。2009 年 8 月には国立天文台と共催で高校生向けの「君が天文学者になる 4 日間 at 姫路」(3 泊 4 日) を開催し、冷却 CCD カメラと分光器が大いに活躍しました。このほか、ビデオカメラ、フィルム一眼レフカメラ、デジタル一眼レフカメラ、小型望遠鏡なども保有しています。各種イベントや天文現象の記録に活用しています。

3. 天体観望会

星の子館の望遠鏡の主な使用目的は天体観望会です。休館日を除き毎日天体観望会を無料で実施しています。観望会では最初に教室に集ってもらい、その日に観望する天体の解説を聞いてからドームに移動して観望してもらいます。19時からと20時から、毎日2回、定員各40人で実施しています。天気の悪い日は、パソコンのプラネタリウムソフトなどを用いてクイズを交えながら天文の解説を行います。一般の観望会では満足できないマニア向けには21時からの観望会も用意しています。

また、学校が休みの日(土、日、祝、長期休暇中)は昼間の天体観望会を行います。青空の中で輝く1等星や金星を観望してもらいます。見学者

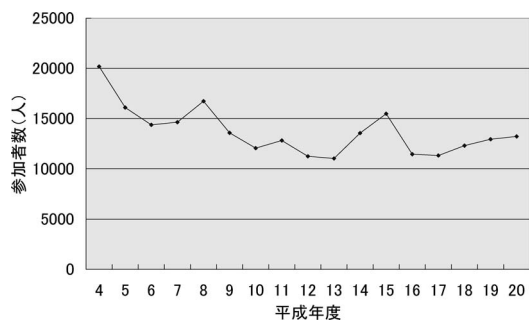


図5 天文関係イベント参加者数の推移.



図6 キラキラクラブの活動で、世界天文年「君もガリレオ」望遠鏡工作中。

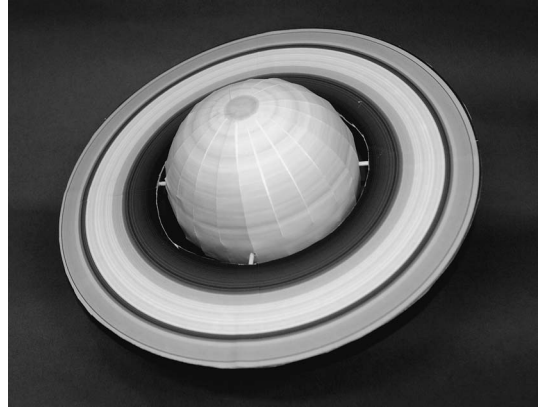


図7 工作会で作った土星儀。

が少ない時には恒星時追尾を止めて日周運動を観察してもらったりもします。

このほか天体写真撮影会や水星や冥王星を捜すイベント、日食などの天文現象の観察会、変光星の観測イベント、惑星儀や星座早見盤の工作なども実施しています。惑星儀の型紙などはホームページ（後述）からダウンロードできるようにしてありますのでご覧ください。

観望会やイベントの参加者数は、最近は年間13,000人前後で、ここ数年は微増傾向です。平成8年と15年に参加者数が増加しているのは、明るく長い尾が見られた百武彗星とヘル・ボップ彗星の接近の年、5万年ぶりの大接近と騒がれた火星大接近の年にあたります。開館以来の天文関係イベント参加者の合計は24万人あまりになりました。

4. 児童館と天文台

星の子館は児童福祉法に基づく児童厚生施設です。姫路市の直営施設で、健康福祉局に属しています。公開天文台白書2006によると、アンケートに回答した公開天文台256施設の中で児童館は10施設しかなく、公開天文台の中では少数派です。

また、星の子館は定員100人の宿泊機能をもった数少ない大型児童館で、公開用としては大型の

天体望遠鏡を備えていることとともに特徴となっています。

家族連れや子供会での利用のほか、四国地方を中心とする小・中学校の修学旅行での利用も多く、宿泊して望遠鏡で星を見ることができるということで好評を得ています。

天文担当職員の勤務は昼過ぎから夜間までで、常勤職員2人、非常勤嘱託1人ですが、交代勤務のため3人がそろうことはめったにありません。

姫路市宿泊型児童館「星の子館」

兵庫県姫路市青山 1470-24

電話：079-267-3050

ファックス：079-267-3055

ホームページ：

<http://www.city.himeji.lg.jp/hoshinoko/index.html>

天体観望会：19時～、20時～、各40人、

要予約、無料、休館日を除く毎日

宿泊：大人1人3,600円～

休館日：毎月第2水曜日（8月、12月を除く）

年末年始（12月28日～1月4日）

バス：JR 姫路駅北側から、神姫バス「太市」行きで「星の子館前」下車すぐ

JR：姫新線「余部駅」下車 徒歩30分

車：山陽自動車道「姫路西IC」から10分

姫路バイパス「太子東IC」から5分